

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月17日

協議会名: 土浦市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
土浦市地域公共交通活性化協議会 (運行は関東鉄道(株)に業務委託)	キララちゃんバス 運賃150円 ※障害者・小学生 割引有り。未就学児無料 【亀城公園循環】 運行時間: 7:20～19:35 系統: 土浦駅西口～亀城公園 前～土浦駅西口(9.1km) 左回り: 6回／日 右回り: 8回／日 【霞ヶ浦循環】 運行時間: 7:20～19:40 系統: 土浦駅西口～霞ヶ浦湖 畔～土浦駅西口(11.9km) 左回り: 6回／日 右回り: 8回／日 車両減価償却費等国庫補助金 活用(ノンステップバス1台)	・キララちゃんバス運行 20 周年記念事業として、令和6年7月6日に土浦市公共交通シンポジウムを開催した。 ・キララちゃんバスPRのため、沿線の観光・飲食店情報等を掲載した沿線MAPの作成を継続して作成した。 ・キララちゃんバスに親しみをもってもらうため、地元商店会主催のイベントへの出店や、バスを活用した神社仏閣巡りを開催した。	A 事業は適切に実施された。	令和6年度目標値 ・年間乗車人数100,510人 ・収支率27.8% 令和6年度実績値 ・年間乗車人数127,701人 (達成率127%) ・収支率29.5% (達成率106 %) 新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、乗車人数、運賃収入共に回復し、目標値を達成できた。	・引き続き利用促進調査研究として、利用者等アンケートの実施やワークショップを行っていく。 ・キララちゃんバスPRのため、沿線の観光・飲食店情報等を掲載した沿線MAPの作成を継続する。 ・利用者に気持ちよくバスを待ってもらうため、バス停留所のボランティア清掃イベントを継続する。 ・利用者ニーズに合わせた便数の調整等を検討する。
土浦市地域公共交通活性化協議会 (運行は関東鉄道(株)に業務委託)	中村南・西根南地区コミュニティ交通 運行時間: 8:00～17:45 運賃: 200円 ※障害者・小学生割引有り。未就学児無料 系統: 荒川沖駅～カスミ中村店～霞ヶ浦医療センター (往路: 14.0km、復路: 14.1km) 5往復／日	・利用促進策として、クリアファイル・貸し出し用傘の作成を行った。	A 事業は適切に実施された。	令和6年度目標値 ・年間乗車人数11,240人 令和6年度実績値 ・年間乗車人数12,247人 (達成率109%) 各地区での周知活動を行った結果、認知度向上が図られ、目標値を達成できた。	・認知度向上に向けた利用促進グッズの作成や、運行地区イベントでの出店を行う。 ・停留所の利用実績等に応じ、地元意見交換会と協議を行い、運行内容を検討する。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	沿線MAPの継続的な作成や、イベントへの出店、利用促進グッズの作成など、色々な需要喚起策に取り組まれており、年間乗車人数、運賃収入の目標値が達成できている点は評価できる。引き続き、周知活動や利便性向上に係る取組を期待したい。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。
---------------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名: 日立市公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
特定非営利活動法人助け 合いなかさと	デマンド型交通「なかさと号」 営業区域:日立市中里地区(東 河内町、中深荻町、下深荻町、 入四間町) 運行日:月曜～金曜(原則) 運行時間帯:8時30分発～14 時30分発 運賃: 中里地区内運行 1外出当たり 300円	・平成28年に策定した日立市地 域公共交通網形成計画及び、平 成31年に策定した日立市公共交 通利便増進実施計画に基づき各 種施策を実施した。 ・高齢者の地区内の移動手段を 確保し、他の交通事業者との調 整を図りながら、高齢者運転免許 自主返納者への回数券交付など の利用者や、交通弱者に対する 移動手段確保、利便性の向上の ための施策を図った。	A ・事業が計画に位置付けら れたとおり、適切に実施さ れた。	B ○ 目標 令和2年度の1日当たり利 用者数に対し110% ○ 実績値 1日あたりの乗車人数: 14.4人 (R2年度比105.1%、対前 年度比97.3%) ○ 考察等 ・なかさと号は、地区内の交 流センターや運動場での地域 イベントに参加する方が多く 利用しているが、人口減少等 により利用者数は減少傾向に あり、基準年度に対しての 目標値は達成できなかった。 ・一方で、運行地区内に金融 機関が無くなったことに伴い、 新たに地区外の目的地を設 定する等、地域の実情に応じ た運行内容の改善を行うこと で、区域内外でのアクセス性 の向上が高まった。	・引き続き、中里地区の高齢者 や免許を持たない方の移動手 段を確保するとともに、高齢者 の運転免許自主返納者に対す るなかさと号利用回数券の交 付を推進する。 ・運行区域内の医院・商店など が年々閉業しており、区域内に ある生活利便施設のみでは、 地域住民の生活に支障をきた していることから、路線バス等 との連携により、区域外施設と のアクセス向上を図り、高齢者 の安心・安全な移動手段の維 持・確保を図っていく。

茨城交通株式会社	系統：日立駅中央口～ケースデンキ日立店前～平和台霊園線（11.2km） 運行回数：(改正前)21回／日 (改正後)29回／日 運賃：200円～570円	・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。 ・地域住民、交通事業者とパートナーシップ協定を締結して、乗車促進活動に取り組んだ。 ・乗車促進活動を行う地域の団体に対し、活動助成金を支援し、継続的な活動に協力した。	A	B	○ 目標 令和2年度の1便当たり利用者数に対し110% ○ 実績値 1便あたりの乗車人数：24.6人 (R2年度比107.4%、対前年度比106.5%) ○ 考察等 ・当該系統を利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられ、一定数の通通勤利用者が当該路線を利用しなくなったことなどが原因となり、計画目標値は達成できなかったと推測される。 ・沿線学校・企業等への移動手段として、幹線の交通軸と接続する交通ネットワークを確保できた。 ・利便性の高い市内南北路線維持のため、住民主体の利用促進活動を今後も継続する。 ・地域住民と協働し、路線バスの乗車促進を行うほか、沿線にある企業等に対する利用促進活動を実施していく。
	系統：おさかなセンター～サンピア日立～大甕駅西口(学園前)線(3.3km) 運行回数：3回／日 運賃：200円～240円	・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。 ・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。 ・当クラブが主体となり、ひたちBRTフォトコンテストを実施し、応募のあった作品を目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。 ・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。	A	A	○ 目標 令和2年度の利用者数に対し110% ○ 実績値 1便あたりの乗車人数：16.2人 R2年度比：145.9%、対前年度比154.3%) ○ 考察等 ・当該系統を利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられた一方で、沿線の学校等で対面での通常授業が再開したほか、外出自粛等の行動制限が無くなったことから、目標達成に至ったと想定される。 ・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。

	おさかなセンター～サンピア日立～多賀駅前線 (8.7)km 運行回数:44回／日 運賃:200円～480円	・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。 ・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。 ・当クラブが主体となり、ひたちBRTフォトコンテストを実施し、応募のあった作品を目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。 ・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	○ 目標 令和2年度の利用者数に対し110%。 ○ 実績値 1便あたりの乗車人数: 21.4人 (R2年度比119.6%、対前年度比108.6%) ○ 考察等 ・当該系統を利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられた一方で、沿線の学校等で対面での通常授業が再開したほか、外出自粛等の行動制限が無くなったことから、目標達成に至ったと想定される。	・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。
	おさかなセンター～多賀駅前線 (8.3km) 運行回数:11回／日 運賃:200円～480円	・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。 ・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。 ・当クラブが主体となり、ひたちBRTフォトコンテストを実施し、応募のあった作品を目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。 ・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	○ 目標 令和2年度の利用者数に対し110% ○ 実績値 1便あたりの乗車人数: 27.7人 (R2年度比107.4%、対前年度比107.4%) ○ 考察等 ・当該系統を利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられ、一定数の通通勤利用者が当該路線を利用しなくなったことなどが原因となり、計画目標値は達成できなかったと推測される。 ・一方で、沿線学校等への移動手段として必要不可欠な系統であり、幹線の交通軸と接続することで利便性の高い交通ネットワークの構築が図られた。	・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。

	大甕駅西口(学園前)線～多賀駅前線(5.4km) 運行回数:43回／日 運賃:200円～350円	・平成28年に策定した日立市地域公共交通網形成計画及び、平成31年に策定した日立市公共交通利便増進実施計画に基づき各種施策を実施した。 ・地域住民、沿線企業及び交通事業者等関係団体で組織するひたちBRTサポーターズクラブと連携し、利用促進活動を実施した。 ・当クラブが主体となり、ひたちBRTフォトコンテストを実施し、応募のあった作品を目的施設内に展示することで、BRTの認知度向上と応募者からの利用促進を図った。 ・当クラブでひたちBRT時刻表を制作し、利用者に配布したことでBRTの利便性を向上させた。	A	・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	○ 目標 令和2年度の利用者数に 対し110% ○ 実績値 1便あたりの乗車人数: 11.9人 (R2年度比96.0%、対前年度比92.2%) ○ 考察等 ・当該システムを利用していた沿線企業の勤務形態に変化(テレワークの定着化)がみられ、一定数の通勤利用者が当該路線を利用しなくなったことなどが原因となり、計画目標値は達成できなかったと推測される。 ・一方で、沿線学校等への移動手段として必要不可欠なシステムであり、幹線の交通軸と接続することで利便性の高い交通ネットワークの構築が図られた。	・運行実態を踏まえ、随時運行内容の見直し(ダイヤの調整、JRとの接続強化など)を検討していくとともに、沿線住民等への利用促進策の推進を継続して実施することにより、事業の継続性や収支の改善を図っていく。
--	---	---	---	------------------------------------	---	--	---

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	一部系統においては目標達成には至らなかったが、地域住民や交通事業者と連携した利用促進活動や、高齢者運転免許自主返納者へ乗車回数券を交付などの取り組みは評価できる。引き続き利用促進の取組を進めていただきたい。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
--	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月29日

協議会名: 古河市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
・総和中央交通株式会社 ・三和交通有限会社 ・諸川タクシー有限会社 ・有限会社総和タクシー	デマンド交通「愛・あい号」 営業区域:市内全域(1病院のみ市外対応) 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時～17時 (土曜は15時まで) 運賃:300円・500円・800円	利用者が目標値に達していなかったため、広報等で周知利用促進を図った。また、引き続き、高齢者運転免許証自主返納等支援事業を促進した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成できた。 目標:平均利用者数114.0人/日 実績:平均利用者数123.4人/日 分析:R6.4月～時間便制を撤廃したことにより、利用可能時間が増え利用者増につながった。	R6.4月～WEB予約を開始、時間便制を無くし利用者の利便性を図った。予約の電話がつながりにくいとの声が多数あげられているため、WEB予約利用者が増加するよう周知を図り、利用者が少ない時間帯の利用者確保を推進する。また、「スマホ教室」を実施し、高齢者のデジタルデバインド対策を講じる。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	利用者の需要を考慮した運行制度の改善に取り組み、平均利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・デマンド交通で乗車人数が目標を達成されたことは素晴らしい。 ・利用状況を把握し、利用者が集中する時間帯や目的地等があれば、一部を定時定路線にするなど利用者に向けたサービス内容の変更を検討していただきたい。
--	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月20日

協議会名: 龍ヶ崎市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
有限会社佐貫タクシー 布川交通株式会社	運行系統名: 龍ヶ崎市乗合タクシー 営業区域: 龍ヶ崎市内全域 運賃: 500円 運行日: 全日(1月1日～1月3日を除く) 運行時間帯: 8時00分(1便目)～ 18時30分(8便目)	・前回の二次評価結果を受け、関係者と情報共有を行い、市広報紙への利用促進記事の掲載等により、将来の公共交通を残していく大切さの利用促進を実施した。 ・利用者の移動手段の確保と、市内における交通空白地域が発生しないよう運行を継続した。 ・令和7年度計画においては、「龍ヶ崎市地域公共交通計画」に基づき、これまでに引き続き「利用者数」「利用者1人1回あたりの公的資金投入額(市負担額)」「乗合率」を目標に記載した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	事業が計画に位置付けられた目標を達成できない点があった。 目標①: 利用者数4,758人以上 実績: 3,935人(令和5年度実績) 目標②: 利用者1人1回あたりの公的資金投入額(市負担額)1,096円以下 実績: 1,093円(令和5年度実績) 目標③: 乗合率30.0% 実績: 22.4%(令和5年度実績) 分析: 乗合率については、利用者の減少により、乗合の機会が減少したためと考える。利用者減少については、AIオンデマンド交通実証実験(R5.11～R6.3、運賃300円)、ヘビーユーザーの減、物価高騰のあおりが理由として考えられる。	当事業は他の公共交通を補完するものであると位置付けているため、他の公共交通を利用できない方など、必要な方に認知していただけるよう周知活動に努める。 (特記事項) R5.11～R6.3にコミュニティバス利用者が少ない市東部地域においてAIオンデマンド交通の実証実験を実施した。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	関係者と情報共有を行い、市広報紙への記事の掲載など利用促進に取り組んだ点は評価できるが、利用者数及び乗合率については未達成となった。引き続き、必要とされている方に利用して頂けるよう、周知活動や利便性向上に係る取組を期待したい。 また、第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・在り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
---------------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月7日

協議会名:	常総市公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関鉄タクシー(株) 松並タクシー(有) (有)三妻タクシー 水海道ハイヤー(有)	デマンド交通(常総市内全域)	「住民を巻き込み、自分事化するような仕組みを検討していただきたい」との前回の評価結果について、具体的な検討はできていないが、デマンド交通の運行事業者(タクシー事業者)が年々減少してきており、供給量が減ってきていることから、地域主体のボランティア移送サービス等の取組が行われることで、デマンド交通でカバーしきれない移動需要を補完する期待がもてる。このような動きが出た際には、行政と共に当協議会でも可能な限り協力をしていきたい。 「定量的な目標を示し、関係者と情報を共有しながら進めていただきたい」という評価結果について、当協議会の中でデマンド交通の実績を共有しながら、次期地域公共交通計画の改定の中で、目標値の見直しについて協議を重ねていきたい。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 目標とした1日平均利用者数71.0人に対し53.6人であり、目標を下回る結果となった。	運行委託事業者が年々減少してきている中で、変わらずにサービスを提供していくためにも、サービス提供方法の見直しが必要である。 そのような中で、令和6年11月デマンド交通の予約システムにAIオンデマンドシステムを導入し、同12月から本格稼働となっている。 AIオンデマンドシステムの導入により、効率的な配車が期待できることから、限られた資源を有効に活用しデマンド交通を維持していきたい。 また、コミュニティバス等ほかの交通モードとの役割の明確化を図り、交通網の最適化を図っていきたい。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	1日平均利用者数の目標値は達成できなかったものの、AIオンデマンドシステム導入による効率的な配車に向けた取組の実施は評価できるため、引き続き、周知活動や利便性向上に係る取組を期待したい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名: かすみがうら市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東鉄道(株)	系統名:霞ヶ浦広域バス 運行区間:土浦駅～玉造駅	令和6年度の計画についてはコロナウイルスによる利用状況が改善されると見込み利用者数及び収支率目標を設定した。 学生向けの通学定期券「スクールパス」の広報周知を実施した。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B ・利用者数 目標:36,500人 実績:39,917人 ・収支率 目標:67% 実績:57.2% 令和6年度実績は、コロナ禍の影響も緩和してきたためか、利用者数が前年33,695人に対し39,917人と改善された。収入については前年度10,541千円に対し、今年度11,762千円とこちらも改善された。	・新中学生、新高校生に向け通学乗車券「スクールパス」の広報周知を強化し、バスの利用促進につなげる。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	学生向けの通学定期券の周知に取り組まれ、収支率の目標は未達成となったものの収入は改善したこと、また利用者数の目標を達成されたことを評価する。引き続き、周知活動や利便性向上に係る取組を期待したい。 第三者評価委員会における有識者からの助言(下記)を今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 7年 1月 17日

協議会名: 阿見町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(有)新町タクシー	陸上交通に関わる 地域公共交通確保維持事業 (地域内フィーダー系統) 区間: 阿見町全域及び JR荒川沖駅東口付近 デマンド型交通名: あみまるくん 運行日: 月曜日～金曜日 (祝・祭日及び年末年始は運休) 運行時間: 午前8時から午後5時まで 利用方法: 電話予約	・広報あみへの掲載、あみまるくんの利用案内を行政区回覧により、周知促進を行った。 ・地域公共交通計画の施策に設定した、町ウェブサイト内のリニューアルを図り、いばらき電子申請・届出サービスを利用した利用申請登録を開始した。 ・茨城大学の受託研究、事業者意見交換会の結果を踏まえ乗合率の向上施策(目的地・時間帯単位での号車変更等)に取り組んだ。	A ・広報による周知促進や電子申請の開始により登録者数は昨年比で上昇したが利用者は1日あたりの運行回数を減らした結果減少している。予約センターでの号車変更施策により前年度乗合率1.12に対し乗合率1.14と上昇したため、乗合率の向上施策は適正に実施できている。 ・高齢者や公共交通不便地域の移動手段の確保につながっている。	B ・目標である月当たり平均利用者数976人に対し、938人(対前年比93.8%)となっている。前年差で△62人となり1日1台あたり1人の増加で目標達成となるため、運行事業者、予約センター事業者との協議によって改善が見込められると思われる。 ・運行事業者からの要望でドライバーの健康管理や安全面を考慮し運行回数を減らしたため、利用者数が減少した。	・登録者は増加傾向だが利用者数が減少したため、運行計画の見直しや乗合率の向上施策を行う。また、引き続きデマンド交通の認知度を向上させるため掲示物、広報、自治会への回覧等で周知促進を行う。 ・地域公共交通計画に基づいたデマンド交通の運行・施策を実施していく。 ・引き続き茨城大学への受託研究結果を元に、乗合率の向上について研究を行っていく。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	月当たり平均利用者数の目標値は達成できなかったものの、乗合率の向上施策は評価できる。引き続き、実情に応じた運行の改善を期待したい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。
---------------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月21日

協議会名: 牛久市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東鉄道株式会社	「牛久市コミュニティバスかっぱ号」の運行 ・朝夕の通勤・通学者を対象とした路線(3路線) 上柏田・むつみルート(朝) 系統:牛久駅東口～牛久駅東口 運行回数:5回/日 運賃:170円 上柏田・むつみルート(夕) 系統:牛久駅東口～牛久駅東口 運行回数:6回/日 運賃:170円 さくら台・みどり野ルート 系統:牛久駅東口～牛久駅東口 運行回数:6回/日 運賃:170円 ・日中の外出者を対象とした路線(2路線) みどり野ルート 系統:牛久駅東口～牛久駅東口 運行回数:11回/日 運賃:100円 刈谷ルート 系統:牛久駅東口～牛久駅東口 運行回数:5回/日 運賃:100円 ※上記5ルートにて車両減価償却費補助活用(ノンステップバス2両)	利用実績のデータや利用者からの意見、鉄道ダイヤ等を分析し、鉄道との接続調整の実施や利用者の要望に則したルート変更の検討を行った。	B 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった。バス運転手不足に伴う減便のため、一部の系統が廃止となった。	B 令和6年度(R5.10.1～R6.9.30)の評価において、利用者一人当たり市負担額について目標達成であり、利用者数・収支率は未達成であった。目標達成の理由としては、減便に伴い運行経費が減少したが、利用者数は昨年度よりも増加したためであると考え。目標未達成の理由として、利用者数は回復傾向が続いているものの、減便に伴い利便性が低下した影響で、バス以外の交通手段が選択されている可能性がある。 ・利用者数 (目標値:300,000人/年以上) (今年度実績値:286,735人/日) ・利用者一人当たりの市の負担額 (目標値:260円/人以下) (今年度実績値:254円/人) ・収支率 (目標値:25%以上) (今年度実績値:24%)	・かっぱ号の利用を希望する小学生を募集の上、お試し乗車券を配布し、利用機会の創出を行うことで、将来のコミュニティバスの利用者増加へと繋げる ・路線バス、かっぱ号、鉄道等の路線図・時刻表を集約した公共交通マップの作成及び配布を行うとともに、利用促進キャンペーン等を通じ広く市民に周知して、利用者の増加を図る。 ・バスロケーションシステムのPRを継続して行う。 ・市民アンケートや、利用実績データ等の調査・分析を行い、必要に応じて計画や目標値の変更等を検討する。 ・運行事業者と運転手確保に向け、継続的に協議を行い、必要な人員確保に努める

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	鉄道との接続調整の実施や利用者の要望に則したルート変更の検討の取組は評価できるが、利用者数及び収支率の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。
---------------------------------	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月20日

協議会名： つくばみらい市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
守谷タクシー(有) (有)常陽観光タクシー さくら住宅(株)	デマンド乗合タクシー「みらいくん」 利用対象者：本市に住民登録されている方 で、一人で乗降が可能な方 運行区域：つくばみらい市全域 (つくばみらい市限定) 運行日：月～土曜日 (12/29～1/3は運休) 運行便数：1日最大16便 (1回につき最大2台) 利用料金：別添「つくばみらい市地域公共 交通利用ガイド」内運賃表のとおり 予約受付 ■電話予約 利用を希望する3運行日前から、運行日の 60分前まで。 ただし運行日の午前8時～午前10時までで については、前日までの予約 予約受付時間：午前8時30分～ 午後5時(運休日を除く) ■インターネット予約 利用を希望する2運行日前から、運行日の 60分前まで。 ただし運行日の午前8時～午前10時までで については、電話による前日までの予約 予約受付時間：午前2時～午後11時50分	①福祉関係部署と連携し、窓 口来庁者に対して利用促進を 実施。 また、免許返納担当部署とも連 携し、併せて利用促進を実施し た。 ②デマンド乗合タクシーの利用 促進を図るため、市内イベント での周知活動、市HPIによる公 共交通を活用した市外総合へ の乗り継ぎ案内などを実施。	A 計画通り、事業は実施され た。	A 目標である利用者数7,101人 に対し、8,127人の利用となり 目標を達成した。小人・障が い者の利用は前年度比で221 人減少したものの、大人、未 就学児・介助者が合わせて 947人増加し、総利用者は前 年度比726人増となった。 実利用者人数は552人とな り、前年度比68人増となっ た。552人のうち、245人が昨 年度利用がなかった方で、新 たなニーズをとりこめたことが 目標達成の要因となったと考 えられる。	デマンド乗合タクシーの登録者 数や認知度をさらに向上させる ため、広報紙や市内イベント等 で幅広く周知するとともに、利 用需要のある子育て世帯や高 齢者・運転免許返納者等に対 してPR活動を行い、利用促進 を図る。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	周知活動などによる利用促進に取り組まれ、利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・利用者が増加した要因(外出の増加、自家用車利用からの転換、路線バスからの転換等)を分析し、把握することも検討していただきたい。 ・利用状況を把握し、利用者が集中する時間帯や目的地等があれば、一部を定時定路線にするなど利用者に合ったサービス内容の変更を検討していただきたい。
---------------------------------	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月14日

協議会名： 五霞町地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
朝日自動車(株)	フィーダー系統 ○五霞町コミュニティ交通 ・系統(路線定期運行) 朝晩ルート(江川本村～南栗橋駅)7.4km 日中ルート(江川本村～ベイシア)17.9km 日中ルート(江川本村～南栗橋駅)14.6km ・運行回数 朝晩ルート(江川本村～南栗橋駅)8.5回/日 日中ルート(江川本村～ベイシア)3回/日 日中ルート(江川本村～南栗橋駅)1回/日 ・運賃 200円/割引(100円) ※日中ルートは、R5.10～R6.1.9まで ○デマンド型交通「ごかりん号」 営業区域:町内全域及び一部町外 運行日:月曜～土曜 運行時間帯:8時～16時 運賃:400円/割引(200円)	令和5年度に引き続きホーム ページや広報誌、町行事など で周知活動を行った。 令和6年1月から日中ルートを オンデマンド型で運行を開始し たことに伴い、説明会や予約方 法・乗り方等の教室を実施しま したが、昨年度より利用者が減 少してしまった。	A ホームページや広報誌での 周知活動及び会議やイベン トでの周知活動も実施でき た。 新たなシステムの導入に伴 い、予約方法や乗り方の教 室を開催し周知活動も実施 できた。	C 目標:14,954人(昨年の実績) 実績:13,373人 新たなシステムを導入し、町内全 域にバスの停留所を設置した が、利用者は減少してしまった。	オンデマンド交通の運賃は、新 たなシステムを導入したこと に伴い、オンデマンド交通は定期 運行の倍の運賃400円に設定 したが、運賃を下げしてほしい という要望が寄せられているこ とから、今後運賃を改定し、利 用者数の増加を目標とする。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	様々な方法での周知活動の取組は評価できるが、利用者数の目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月14日

協議会名: 東海村地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
茨城交通株式会社	茨城東病院線 系統:東海駅東口～茨城東病院(5.9km) 運行回数:7回／日 運賃:190円～380円	利用状況、利用者ニーズの把握に努め、更なる利用者の増加を図るため、運行ダイヤの改善に取り組むとともに、事業所と一体となってイベント時に公共交通のPRを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した <目標> ・路線バスの利用者数の確保 【全路線】 86,000人⇒90,710人 【対象路線】 51,600人⇒55,878人 <効果> バス路線がなく、デマンドタクシーの運行時間外において公共交通が空白となる地区を解消する。 <達成状況の分析> コロナ禍が明け、路線バスの利用者数は、村内の大規模事業所の通勤に利用されていることも影響し、増加傾向にあり、目標を達成することができた。一方で、地域によって路線バスを利用しない地区も見受けられることから、引き続き利用促進に努め、採算性の確保に取り組む。	通勤・通学での利用をさらに促し、利用者数の増加を図るため、村内事業所や地域住民等に対する啓発活動に努め、持続可能な公共交通網の形成を目指す。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	運行ダイヤの改善や公共交通のPRに取り組まれ、利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
---------------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月30日

協議会名: 城里町地域交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
茨城交通株式会社	①常北中学校～岩下入口 ②常北中学校～大網～赤沢観音前	毎月実施している乗降調査を基に需要動向を把握するとともに以下の施策を実施。 昨年度に引き続き長距離路線の分割(折り返し運行)を実施(これにより折り返し運行便は国補対象外の系統となっている)	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた目標を達成できなかった。 1日当たりの利用者数18.0人以上、収支率19.0%以上の目標に対し1日当たり利用者数19.5人、収支率10.7%であった。 原油価格や物価の高止まりが収支率(経営)に影響を与えたと考えられる。 また、事業地区内の生徒数減少は、利用者の減少に直結することから、懸念事項である。	・原油価格上昇をはじめとする、物価高騰や運転手不足等の諸課題に対応していくことが必要になる。 ・中学校生徒の利用が多くを占める系統である。利用実態・ニーズを踏まえ、運行態様(運行時刻)の見直しを実施し、一層の利用促進活動に努める。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	毎月実施している乗降調査を基にした需要動向の把握に取り組み、収支率の目標は未達成となったものの、1日当たり利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
---------------------------------	--

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月31日

協議会名: 行方市地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東鉄道株式会社 (旧関鉄グリーンバス株式 会社: R06.07.15吸収合併)	系統名: 鹿行北浦ライン 運行区間: 道の駅いたこ〜水郷 潮来バスターミナル・潮来駅・ 延方駅・レイクエコー・麻生庁舎 〜あそう温泉「白帆の湯」(天王 崎)(33.7km) 運行回数: 12回 運賃: 200円(全区間統一)	市営路線バスの再編及び乗合 タクシー見直しを行い、広域路 線バスへの接続の最適化、市 内高校への通学手段としての 周知を実施し、通学利用者の 確保に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実 施された。 運行日数: 366日	A ・年間利用者数 目標: 9,748人 実績: 10,250人 ・1便あたり利用者数 目標: 2.2人 実績: 2.3人 利用者数が回復傾向とな り、目標を達成した。	「行方市地域公共交通計画」に 基づき、市民ニーズや生活圏を 考慮した市営路線バス運行計 画や広域バスの利用促進策等 を茨城県及び連携市の実情に 合わせ再検討する。
関東鉄道株式会社 株式会社池田交通	系統名: 鹿行広域バス「神宮あ やめ白帆ライン」 運行区間: チェリオ・イオン〜鹿 島神宮駅・延方駅・水郷潮来バ スターミナル・潮来駅〜麻生庁 舎(31.5km) 運行回数: 16回/日 運賃: 200円〜500円	市営路線バスの再編及び乗合 タクシー見直しを行い、広域路 線バスへの接続の最適化、市 内高校への通学手段としての 周知を実施し、通学利用者の 確保に努めた。	A 計画どおり事業は適切に実 施された。 運行日数: 366日	A ・年間利用者数 目標: 32,694人 実績: 36,119人 ・1便あたり利用者数 目標: 5.6人 実績: 6.2人 利用者数が回復傾向とな り、目標を達成した。	「行方市地域公共交通計画」に 基づき、市民ニーズや生活圏を 考慮した市営路線バス運行計 画や広域バスの利用促進策等 を茨城県及び連携市の実情に 合わせ再検討する。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	市営路線バスの再編及び乗合タクシー見直しに取り組まれ、年間利用者数及び1便当たり利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・利用者が増加した要因(外出の増加、自家用車利用からの転換、路線バスからの転換等)を分析し、把握することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月24日

協議会名: 潮来市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東鉄道(株) ※申請番号(1)、(2)、(3)	系統名: 広域連携路線バス(鹿行北浦ライン)(33.7km) 運行回数: 6回/日 運賃: 200円(均一料金)	広報誌や市HPを活用した地域住民への日常的な周知の他、観光ハイシーズンにおける観光来訪客の利用促進を目的に、潮来駅から水郷潮来バスターミナル間の広域路線バス時刻表を抜粋したチラシを作成、周知するなど重点的な利用促進を行った。今後は昨年度実施したニーズ調査を踏まえ、ニーズに即した運行形態へ改善を図っていく予定。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 ・利用者数 目標2.2人/便 実績2.3人/便 分析: 生活交通としての路線の定着とともに、移動制限の緩和に伴う観光来訪者を対象とした利用促進チラシの効果により利用者が増加したと考えられる。	「潮来市地域公共交通計画」に基づき、昨年度実施したニーズ調査等の結果を踏まえ、路線再編等を含めた地域公共交通ネットワークの改善に向けて関係機関と協議していく。
関東鉄道(株) (株)池田交通 ※申請番号(4)、(5)	系統名: 鹿行広域バス(神宮あやめ白帆ライン)(31.5km) 運行回数: 8回/日 運賃: 200円～500円	広報誌や市HPを活用した地域住民への日常的な周知の他、観光ハイシーズンにおける観光来訪客の利用促進を目的に、潮来駅から水郷潮来バスターミナル間の広域路線バス時刻表を抜粋したチラシを作成、周知するなど重点的な利用促進を行った。今後は昨年度実施したニーズ調査を踏まえ、ニーズに即した運行形態へ改善を図っていく予定。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 ・利用者数 目標5.6人/便 実績6.2人/便 分析: 生活交通としての路線の定着とともに、移動制限の緩和に伴う観光来訪者を対象とした利用促進チラシの効果により利用者が増加したと考えられる。	「潮来市地域公共交通計画」に基づき、昨年度実施したニーズ調査等の結果を踏まえ、路線再編等を含めた地域公共交通ネットワークの改善に向けて関係機関と協議していく。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	利用者別の周知活動に取り組み、1便あたり利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。
---------------------------------	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月24日

協議会名:	下妻市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東鉄道(株)	(1)下妻市コミュニティバス 系統:ピアスパークしもつま～ 小貝川ふれあい公園 下妻駅～小貝川ふれあい公園 運賃:200円 (2)筑西下妻広域連携バス 系統:下妻駅～川島駅 下妻駅～ピアスパークしもつま ～川島駅 運賃:200円 ※車両減価償却費補助活用	【前回の事業評価結果】 住民を巻き込み、自分事化する ような仕組みを検討していた だきたい。 【反映状況】 市および関東鉄道主催の駅前 イベント等にて、鉄道・バス共 同のPRを行い、公共交通機関 の利用促進を行った。また、イ ベント内で市の公共交通に関 するアンケート調査を行い、市 公共交通に求めることや改善 点など、利用者目線からの意 見を集めることができた。	A 事業が計画に位置付けら れたとおり、適切に実施さ れた。	A 下妻市地域公共交通計画 に定める目標を達成でき た。 ○目標 ・利用者数:30,200人以上 ・収支率:16.7%以上 ○実績 ・利用者数:41,385人 ・収支率:17.9%	・R6.4月から本格運行に移行。 認知度の向上とともに利用者 数も増加傾向にあるが、今後 は利用者の使いやすさ向上の ために細かな調整を実施して いく。 R6.4月から本格運行に移行。 通学利用者の獲得により朝夕 の利用者は確保しているが、 日中の利用者獲得に向けた検 討が必要。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	公共交通機関の利用促進に取り組まれ、利用者数及び収支率の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月23日

協議会名: 常陸太田市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
茨城交通株式会社	路線名: 東部地区循環線 申請系統名: 東部地区循環(特例)(053014) 運行系統: 常陸太田駅～フォレストモール常陸太田～常陸太田駅	【全体】 「常陸太田市地域公共交通計画」(令和4年3月策定)、 「常陸太田市利便増進実施計画」(令和4年3月策定)に基づき、事業者と連携し、公共交通マップや利用促進チラシの配布するとともに、バスの乗り方教室、路線バスツアー等を計画し、実施することができた。 【東部地区循環線】 複合商業施設等の開業に合わせて、令和5年4月22日から運行を開始した系統で休日に常陸太田駅から複合商業施設等周辺への買物等に利用。 運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。	A 運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	C 【目標】 利用人員 13人/日 収支率 36.0% 【実績】 利用人員 1.7人/日 収支率 4.1%	【全体】 「常陸太田市地域公共交通計画」(令和4年3月策定)、 「常陸太田市利便増進実施計画」(令和4年3月策定)に基づき、事業者と連携し、公共交通マップや利用促進チラシの配布、乗り方教室、路線バスツアー等を継続する。今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。 【東部地区循環線】 ※1日あたりの輸送人員が2.0人に満たないため補助対象外。 令和7年3月31日をもって廃止予定。
茨城交通株式会社	路線名: 上宮田代線 申請系統名: 上宮田代(特例)(058105) 運行系統: 太田営業所～常陸太田駅～上宮田代	金砂郷地区より常陸太田駅周辺に接続する系統で金砂郷中学校、太田一高の通学や常陸太田駅へ(から)の通勤、通学に利用。 運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。 生徒が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。	A 運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	C 【目標】 利用人員 25人/日 収支率 13.8% 【実績】 利用人員 13.1人/日 収支率 7.2%	今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。 また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名: 上宮田代線 申請系統名: 上宮田代(特例)(058108) 運行系統: 太田営業所～常陸太田駅～上宮田代	金砂郷地区より常陸太田駅周辺に接続する系統で金砂郷小学校、金砂郷中学校、太田一高、太田西山高校の通学に利用。 令和6年4月1日に小学生の通学に対しダイヤ改正を実施した。 運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。 児童・生徒が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。	A 運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	A 【目標】 利用人員 56人/日 収支率 43.1% 【実績】 利用人員 57.0人/日 収支率 47.1%	
茨城交通株式会社	路線名: 上宮田代線 申請系統名: 上宮田代(特例)(058111) 運行系統: 総合福祉会館～常陸太田駅～上宮田代	金砂郷地区より常陸太田駅周辺に接続する系統で太田一高の通学や常陸太田駅からの通学に利用。 令和5年4月22日に複合商業施設等の開業に伴うルートの見直しを実施した。 運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。 生徒が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。	A 運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	C 【目標】 利用人員 14人/日 収支率 7.3% 【実績】 利用人員 3.2人/日 収支率 6.1%	

茨城交通株式会社	路線名:瑞龍線 申請系統名:瑞龍(特例)(052058) 運行系統:瑞龍浄水場～瑞竜中学校前～菅田小学校前	平成28年10月の再編時に、市民バスから路線バスに移行し、令和6年4月1日に通学路線を統合した系統で、菅田小学校の通学に利用。 児童が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	A	【目標】 利用人員 10人/日 収支率 29.6% 【実績】 利用人員 38.4人/日 収支率 112.5%	令和6年4月1日より運行している系統。 ※瑞龍(特例)(052058)は黒字のため補助対象外。 今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:瑞龍線 申請系統名:瑞龍(特例)(052059) 運行系統:瑞龍浄水場～瑞竜中学校前～菅田小学校前		A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	A	【目標】 利用人員 20人/日 収支率 29.6% 【実績】 利用人員 29.9人/日 収支率 75.8%	
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(051139) 運行系統:総合福祉会館～常陸太田駅～逆久保上	河内地区より常陸太田駅周辺に接続する系統で買物等に利用。 令和5年4月22日に複合商業施設等の開業に伴うルートの見直しを実施した。 運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員 19人/日 収支率 10.4% 【実績】 利用人員 4.9人/日 収支率 4.0%	令和7年3月31日をもって廃止予定。
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(051138) 運行系統:総合福祉会館～常陸太田駅～逆久保上		A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員 9人/日 収支率 10.4% 【実績】 利用人員 2.9人/日 収支率 4.2%	令和7年3月31日をもって廃止予定。
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(051132) 運行系統:総合福祉会館～西(東)二丁目～逆久保上	河内地区より常陸太田駅周辺に接続する系統で機初小学校や瑞竜中学校の通学に利用。 令和6年4月1日に小学生の通学に対しダイヤ改正を実施した。 運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。 児童が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	A	【目標】 利用人員 7人/日 収支率 8.7% 【実績】 利用人員 21.5人/日 収支率 29.6%	令和5年4月1日より運行している系統で令和7年4月1日より機初小学校を終点とした運行に変更予定。 今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、運行事業者だけでなく周辺の学校等とも連携し、通学者等への利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(051140) 運行系統:総合福祉会館～西(東)二丁目～逆久保上	河内地区より常陸太田駅周辺に接続する系統で機初小学校や瑞竜中学校の通学に利用。 令和5年4月22日に複合商業施設等の開業に伴うルートの見直しを実施した。 運行事業者と連携し、利用促進チラシを配布するなど、更なる利用促進に努めた。 児童が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員 9人/日 収支率 10.4% 【実績】 利用人員 7.4人/日 収支率 8.5%	令和5年4月22日より運行している系統で令和7年4月1日より機初小学校を起点とした運行に変更することで、系統番号051146に振替となるため、令和7年3月31日をもって廃止予定。 今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(051134) 運行系統:造宗～はたそめ団地中央～機初小学校	平成28年10月の再編時に、市民バス及びスクールバスから路線バスに移行した系統で、機初小学校の通学に利用。 令和5年4月1日に通学利用への対応に伴うルートの見直しを実施。 令和6年4月1日に小学生の通学に対し、ダイヤ改正を実施。 児童が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	C	【目標】 利用人員 29人/日 収支率 27.2% 【実績】 利用人員 26.9人/日 収支率 27.1%	令和5年4月1日より運行している系統で令和7年4月1日よりGセブン前を起点とした運行に変更予定。 今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、運行事業者だけでなく周辺の学校等とも連携し、通学者等への利用促進策について検討をしていく。

茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(051135) 運行系統:常陸太田駅～ここキラ前～造 宗	平成28年10月の再編時に、市民バス及びスクールバスから路線バスに移行した系統で、機初小学校の通学に利用。 令和5年4月1日に通学利用への対応に伴うルートの見直しを実施。 児童が通学するために重要な系統であるため、今後の利用状況を注視していく。	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	C 【目標】 利用人員 20人/日 収支率 27.2% 【実績】 利用人員 6.2人/日 収支率 8.7%	令和5年4月1日より運行している系統で令和7年4月1日より機初小学校を起点とした運行に変更することで、系統番号051134に振替となるため、令和7年3月31日をもって廃止予定。 今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、運行事業者だけでなく周辺の学校等とも連携し、通学者等への利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:機初線 申請系統名:機初(特例)(051146) 運行系統:機初小学校～瑞電中学校前～逆久保上	-	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	A 【目標】 利用人員 3人/日 収支率 8.3% 【実績】 利用人員 5.2人/日 収支率 10.3%	令和6年4月1日より運行している系統。 今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:水府線 申請系統名:水府(特例)(052060) 運行系統:常陸太田駅～菅田小学校入口～大間ヶ沢	-	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	A 【目標】 利用人員 3人/日 収支率 8.0% 【実績】 利用人員 9.2人/日 収支率 18.1%	令和6年4月1日より運行している系統。 今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:水府線 申請系統名:水府(特例)(052061) 運行系統:太田営業所～ここキラ前～大間ヶ沢	-	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	C 【目標】 利用人員 14人/日 収支率 24.4% 【実績】 利用人員 3.3人/日 収支率 5.3%	
茨城交通株式会社	路線名:小中・里川線 申請系統名:小中・里川(特例)(051144) 運行系統:太田営業所～小中車庫～漆平	-	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	A 【目標】 利用人員 8人/日 収支率 15.3% 【実績】 利用人員 11.5人/日 収支率 20.0%	令和6年4月1日より運行している系統。 今後も、効率的かつ効果的で、利便性の高い路線バスの運行となるよう、利用実態を踏まえながら、必要な運行内容の見直しを行っていく。また、引き続き運行事業者などと連携し、新たな利用促進策について検討をしていく。
茨城交通株式会社	路線名:小中・里川線 申請系統名:小中・里川(特例)(051145) 運行系統:太田営業所～町屋中央～里美小北	-	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	A 【目標】 利用人員 4人/日 収支率 6.9% 【実績】 利用人員 4.7人/日 収支率 6.9%	
茨城交通株式会社	路線名:小中・里川線 申請系統名:小中・里川(特例)(051147) 運行系統:総合福祉会館～フォレストモール 常陸太田～里川入口	-	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	A 【目標】 利用人員 4人/日 収支率 5.2% 【実績】 利用人員 5.2人/日 収支率 6.7%	令和7年3月31日をもって廃止予定。
茨城交通株式会社	路線名:小中・里川線 申請系統名:小中・里川(特例)(051148) 運行系統:総合福祉会館～カインズ常陸太田店～里川入口	-	A	運行事業者と連携し、 路線バス全体としての利用促進に努めた。	B 【目標】 利用人員 4人/日 収支率 3.8% 【実績】 利用人員 2.2人/日 収支率 3.9%	

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	公共交通マップや利用促進チラシの配布に加え、事業者と連携してバスの乗り方教室、路線バスツアーの計画などの利用促進に取り組み、利用人数及び収支率の目標を達成されたことを評価する。一部の達成できなかった目標についても、引き続き運行事業者などと連携して利用促進策を検討されることを期待したい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
---------------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月27日

協議会名: 桜川市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関東鉄道株式会社	筑波山口・桜川市役所岩瀬庁舎間	利用者の利便性向上と運転士の労働改善基準告示の適用に合わせて、運行計画の見直しを行った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 1便あたりの利用者8.0人の目標に対し、実績は8.3人で目標を達成した。 収支率23%の目標に対し、実績は21.8%で目標が達成できなかった。(フィーダー外系統を含む。)	【今後の改善点】 ・利用者アンケートを行い、利用実態を把握し、地域住民の要望を踏まえて運行内容の改善を図っていく。
	筑波山口・地域医療センター経由・桜川市役所岩瀬庁舎間				
	筑波山口・真壁城跡間				
	筑波山口・雨引観音経由・桜川市役所岩瀬庁舎間				

地方運輸局等における二次評価結果(関東運輸局)	利用者と運転士の実情に応じた運行計画の見直しに取り組まれ、収支率の目標値は達成できなかったものの、1便あたりの利用者数の目標値を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。
-------------------------	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月10日

協議会名: 筑西市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東鉄道(株)	(1)筑西市広域連携バス 系統:下館駅北口ー明野支所 前ー筑波山口 運行回数:6回／日 運賃:200円 (2)筑西市広域連携バス 系統:下館駅北口ー明野五葉 学園・茨城県西部メディカルセ ンター・廣澤美術館ー筑波山 口 運行回数:10回／日 運賃:200円	「自分事化するような仕組みの 検討」「定量的な目標を示し、 関係者との情報共有」との事業 評価を受けて、以下の対策を 実施した。 ・公共交通機関を身近に捉えら れる出前講座の実施や、バス の乗降体験ができる乗り方教 室の実施 ・筑西市地域公共交通会議で の各交通モードにおける達成 状況の進捗報告	A 計画に基づき、適切に事業 を実施した。	A 事業が計画に位置付けら れた目標を達成した。 目標:136人(1日当たりの 利用者数) 実績:149.42人 分析:利用促進の取り組み の効果によると考えられ る。	・通勤、通学者の利用時間帯 に合わせたダイヤ改正など、利 用者のニーズを把握するた め、市民アンケートを実施す る。 ・地域への出前講座やイベン トを実施し、利用促進を図る。 ・高校説明会において、高校入 試を控える中学3年生に向け て、通学手段としてバス利用を 促し、路線バスの利用者数の 増加を図る。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	周知活動や関係者との情報共有に取り組まれ、1日当たりの利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月27日

協議会名: 鹿嶋市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東鉄道(株) (株)池田交通	系統名:鹿行広域バス(神宮あやめ白帆ライン) 運行区間:チェリオ・イオン～鹿島神宮駅・延方駅・水郷潮来バスターミナル・潮来駅～麻生庁舎 運行回数:16便/日 運賃:200円～500円	運行区間内の自治体での利用促進策等により、利用者数は増加傾向となっている。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 運行日数366日	A ・1便当りの利用者数 目標 5.6人/便 実績 6.2人/便 ・年間利用者数 目標32,694人 実績36,119人 利用者数に増加傾向がみられ、目標を達成。	「鹿嶋市地域公共交通計画」に基づき、利用者ニーズ等の把握に努め、関係機関と利用促進策を協議していく。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	利用促進策等に取り組み、利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・利用者が増加した要因(外出の増加、自家用車利用からの転換、路線バスからの転換等)を分析し、把握することも検討していただきたい。 ・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月17日

協議会名: 稲敷市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
関東鉄道(株)	稲敷エリア広域バス 系統:江戸崎～ひたち野うしく 駅(22.9km) 運行回数:4回/平日、4回/休日 運賃:190～850円	学生通学定期券補助制度の認知度が徐々に広まりつつある。市内中学校へのチラシ配布、広報誌への掲載等を継続し周知活動を行った。 利用者の乗降データ等をもとに、今後の再編等に向けた検討を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	A 計画に位置付けられた事業が目標を達成できた。 目標:12,000人以上 実績:12,987人 分析:令和6年度より、平日便の本数を1便減らしたことで、輸送効率が上がり、目標人数を達成することができた。	「稲敷市地域公共交通計画」に基づき、関係市町村や運行事業者と連携し、利用促進策の検討を行い、持続可能な路線バス運行を目指す。 通学定期券補助制度の継続と更なる周知を図る。
ブルーバス(株)	ブルーバス浮島線 系統:江戸崎～パルナ前 (23.4km) 運行回数:7回/平日、4回/休日 運賃:170～490円 ※車両減価償却費補助活用 (ノンステップバス1両)	学生通学定期券補助制度の認知度が徐々に広まりつつある。市内中学校へのチラシ配布、広報誌への掲載等を継続した。 利用状況等から、更なる利用者増加に向けたダイヤの改善等、再編の検討を行った。	B 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成できた。 目標:5,500人以上 実績:6,145人 分析:沿線における市内高等学校へ進学した学生の増加および通学定期券補助制度の認知度が広がり、通学で利用する学生が増加したため。	「稲敷市地域公共交通計画」に基づき、効果的なダイヤ再編等の検討は行ったものの、地域住民等との調整ができず協議を行う事ができなかった。 全体的な交通体系の見直しを検討し、市民からのアンケートやデータ分析により改善策の検討を行う。
晃進物流(株)	桜東バス:新利根神崎線 系統:①JA稲敷直売所～(道の駅経由)～下総神崎駅 (32.1km)②JA稲敷直売所～(道の駅経由無し)～下総神崎駅 (28.2km)③JA稲敷直売所～幸田車庫(21.8km) 運賃:170～510円 ※車両減価償却費補助活用 (ノンステップバス2両)	学生通学定期券補助制度の認知度が徐々に広まりつつあり、活用者が微増している。市内中学校へのチラシ配布、広報誌への掲載等を継続した。 利用状況等から、更なる利用者増加に向けたダイヤの改善等、検討を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	A 計画に位置付けられた事業が目標を達成できた。 目標:12,000人以上 実績:14,528人 分析:定期券補助等の取組みにより活用者が増加し、通学で利用する学生が増加したため。	「稲敷市地域公共交通計画」に基づき、関係市町村や運行事業者と連携し、学生定期券補助の継続を含め住民等への利用促進策の推進を行い、更なる利用者増加を図る。
稲敷市	あずまコミュニティバス:月・木ルート 系統:幸田車庫～パルナ (17.6km) 運行回数:4回/月・木 運賃:200～400円	令和5年4月より実施した路線再編により、一部の特定地域のみではあるが、一定の利用者が確保された傾向がみられ、利用状況等から、更なる利用者増加に向けたダイヤの改善等、再編の検討を行った。	B 事業が計画に位置付けられたとおり適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられた目標を達成できた。 目標:700人以上 実績:1,341人 分析:商業施設等への時刻表掲示により認知度が高まり、日中の買い物での利用者が増加した。	「稲敷市地域公共交通計画」に基づき、効果的なダイヤ再編等の検討は行ったものの、地域住民等との調整ができず協議を行う事ができなかった。 全体的な交通体系の見直しを検討し、市民からのアンケートやデータ分析により改善策の検討を行う。

地方運輸局等における
二次評価結果
(関東運輸局)

周知活動や、利用状況に応じた改善の検討に取り組まれ、利用者数の目標を達成されたことを評価する。
第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。
・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。
・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 7 年 1 月 16 日

協議会名:高萩市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
高萩市乗合タクシー協議会 (運行事業者:高萩タクシー 株、(有)東タクシー)	山間地域や市街地空白地域において、需要に 応じて運行するデマンド型乗合タクシーを導入 し、公共交通空白地域の解消を図る。 【デマンド型乗合タクシー(山間地域)】 運行区域:山間地域 運行日:月曜～金曜(祝日、年末年始運休) 運行時間帯:8時00分～18時30分 運行本数:8便／日 運賃:400円／回 【デマンド型乗合タクシー(高戸常磐線東・赤浜 地区)】 運行区域:高戸常磐線東・赤浜地区 運行日:月曜、水曜、金曜(祝日、年末年始運 休) 運行時間帯:8時30分～15時30分 運行本数:6便／日 運賃:400円／回	昨年度同様、引き続き公共交 通の周知活動や利用促進に取 り組むべきとの評価結果を受 け、市内病院や高萩駅、公共 施設に対し、内容を説明しポス ターの掲示をお願いした。 その結果、前年度から新規登 録者が7名増え、新規利用者を 獲得することができた。	A 事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた。	C ・山間地域の一般利用者に おいては、対象人口は減少 傾向であるものの輸送人員 総数はほぼ横ばいとなっ た。(1,142人→1,258人) 一方、通学用において利 用する子どもの減及び下校 便の利用減により輸送人員 総数が減少。(886人→644 人) 全体として、減った状況と なっている。 ・市街地空白地域において は、昨年度と比較し輸送人 員総数が2倍以上増加した (32人→73人)。	・運転免許を自主返納する市 民が増加傾向にあるなか、山 間地域、市街地空白地域の市 民は返納率が全体の約7%に とどまっている。移動手段が減 ることに対し不安をもつ市民も いると思われるため、引き続き 市ホームページ、市報、くらし の便利帳等のほか、関係機関 に対しデマンド型乗合タクシー の周知を行い、利用者数の増 加を図る。 ・本市では65歳以上で運転免 許を自主返納した人を対象に、 バス及び乗合タクシーで利用 できる交通利用券3万円を交 付している。乗合タクシー運行 対象地域においても年間数名 が申請しているため、申請のタ イミングで乗合タクシーへの申 請が同時にできるよう、他部署 と連携し、上記の周知を含め取 り組む。
茨城交通(株)	比較的用户の少ない時間帯をダイナミック ルーティングに移行し、需要に応じて柔軟に運 行させることにより、利用者の利便性を図る。 【ダイナミックルーティング(MyRideのるる)】 運行エリア:常磐自動車道より東側の地域 運行日・時間帯 平日概ね8:30～15:00 土日祝概ね9:00～14:00 (年末年始やお盆などは土日祝として運行、1 月1日～3日は運休) バス停数:237箇所(既存バス停96箇所、仮想 バス停141箇所) 運賃:300円／回	公共交通の周知活動や利用促 進に取り組むべきとの評価結 果を受け、市内病院や高萩 駅、公共施設に対し、内容を説 明しポスターの掲示をお願いし た。また、住民を巻き込み自分 事化するような仕組みを検討 するべきとの評価結果を受け、 市主催のスマホ教室の開催や 市内各種団体(民生委員・児童 委員等)向けの出張説明会等 を実施した。 その結果、前年度から683名の 新規利用者を獲得することが できた。	A 事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた。	C 令和8年度までに、令和3年 度(4.0)と比較し、住民1人 あたりの路線バス利用回数 0.5ポイント増を目標として いるが、0.3ポイント減となっ た。 分析 本格運行から約2年が経過 し、現在も新規登録利用者 数は月平均56人増加して いる。ダイナミックルーティ ングを運行している日中の 利用時間は増えているもの の、朝夕の定時定路線の 利用が減少傾向にあること が理由と考えられる。	・利用登録者数は月平均56人増加 しており、徐々に浸透しつつある一 方で、アプリと電話での予約比率 が4.5:5.5と電話での予約が依然と して多い。電話は時間帯によっ ては繋がりにくくなり予約をとれない こともあるため、今後よりアプリの 利用促進を図り、アプリの使用に 関し抵抗のある方に対し利用しや すいことを知ってもらう必要があ る。 ・交通事業者が実施したアンケート を基に、利用者の意見を踏まえ検 討を進め利用促進を図る。 ・働き方改革や運転手不足を契機 とした定時定路線の減便・運休を 踏まえ、ダイナミックルーティ ング(MyRideのるる)の運行時間を現行 の平日日中に加え朝と夕方まで延 長することで利用者の足の確保を 図る。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	輸送人員総数や住民1人あたりの路線バス利用回数の目標値は達成できなかったものの、ポスター掲示に加えスマホ教室や説明会実施等の積極的な周知活動を行い新規利用者を獲得されていることや、市街地空白地域の輸送人員総数を大きく伸ばしたことは評価出来るため、引き続き、周知活動や利用促進に係る取組を期待したい。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。
---------------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 7年 1月 21日

協議会名: 神栖市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
関東鉄道株式会社	神栖コミュニティバス(鹿島神宮駅-小見川駅間) 系統:鹿島神宮駅～小見川駅 21.7km 運行回数:6便(3往復)／日 運行日:月曜～日曜 (1/1～1/3運休) 運賃:170円～560円(区間制) 190円～590円(区間制)※ R6.4.1～ 運行車両:ノンステップバス	・利便性の向上や、利用促進の取組を引き続き行うようにとの評価結果を受け、運行事業者の協力の元、利用促進に関する検討(新システム導入、オープンデータ化)を実施	A	計画どおり事業は適切に実施された。 運行日数:363日	A 目標:4.0人/便 実績:6.4人/便 分析:年間を通して安定的に利用者は増加しており、広報活動等により、コミュニティバス自体の認知が広まったことによるものと考えられる。	引き続き、利用者ニーズを踏まえたダイヤ改正の検討や、市内外の利用者に向けた利用促進施策を行い、利用者増に向けて事業を継続していきたい。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	利用促進に関する検討に取り組み、1便当たり利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・利用者が増加した要因(外出の増加、自家用車利用からの転換、路線バスからの転換等)を分析し、把握することも検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。					

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月21日

協議会名: 八千代町公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)青木観光	デマンド交通「八菜まわ〜る号」 運行区域: 八千代町内全域 運行日: 月曜〜金曜 (土日祝日、お盆8月13日〜8月16日、年末年始12月29日〜1月3日は運休) 運行時間帯: 8時00分〜16時00分 運行本数: 9便／日 運行車両: 3台 運賃: 300円 (ただし、第1種身体・知的障がい者及び精神障がい1級の方の介添人1名、妊婦(母子手帳保持者)の介添人1名、未就学児は無料)	住民に対し、デマンド交通をさらに周知いただき、利用者増を図られたいとの評価結果を受け、下記の取組を行った。 ▼民生・児童委員定例会にて、八菜まわ〜る号の利用登録募集及び高齢者運転免許自主返納支援事業(運転免許を自主返納した65歳以上の高齢者に対し、八菜まわ〜る号の利用券30枚交付)を周知した。 ▼広報誌を活用し、八菜まわ〜る号の無料乗車券を配布した。 ▼町秋まつりにおいて、利用登録募集及び車両を展示し、八菜まわ〜る号のPRを行った。 ▼令和6年4月より運行ダイヤを30分間隔に改定し、本数を増やした。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。 目標: 1日平均利用者数13.37人以上、年間延べ利用者数3,250人以上 実績: 1日平均利用者数13.9人、年間延べ利用者数3,318人 分析: 令和6年4月から運行ダイヤを30分間隔に改定し、利便性が向上した事が理由として挙げられる。	▼新規利用者を継続的に確保するため、引き続き、広報誌等を活用し、町イベント等でのPRに取り組む。 ▼町の高齢福祉部門と連携し、運転免許返納促進事業を継続して行い、高齢ドライバーの交通事故を防止するとともに、「八菜まわ〜る号」の利用率向上に繋げる。 ▼町内の公共交通網を整備していくことで利便性を図り、今後、利用状況の推移を見ながら、さらに利便性の向上に向けた取組を行う。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	様々な周知活動に加え、ダイヤ改定による利便性の向上にも取り組まれ、利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・デマンド交通で乗車人数が目標を達成されたことは素晴らしい。 ・利用者が増加した要因(外出の増加、自家用車利用からの転換、路線バスからの転換等)を分析し、把握することも検討していただきたい。
---------------------------------	--

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月29日

協議会名: 守谷市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
守谷市地域公共交通活性化協議会(運行主体:守谷タクシー有限会社、関鉄タクシー株式会社、小川交通有限会社、株式会社守谷福祉協会)	守谷市デマンド乗合交通 営業区域:市内全域 月曜から土曜日、祝日 運行時間:8:00～16:30 運賃:300円(障害者手帳及び療育手帳保持者は200円)	市内高齢者サロンにて、高齢者の方を対象にデマンド乗合交通を含む公共交通利用講座を実施し、市内公共交通網の周知と利用方法の普及に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	目標人数19,600人以上のところ、19,737人となり、目標を達成した。国の基準に則り、連続運転時間を確保したため運行件数が減少したが、乗合率が平均4.2%向上したことが要因と考える。	午前中～昼時間帯のお断り件数が多い状態である。この時間帯のルール見直し等による乗合率向上を検討する必要がある。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	想定利用者に応じた周知活動に取り組み、利用者数の目標を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・利用状況を把握し、利用者が集中する時間帯や目的地等があれば、一部を定時定路線にするなど利用者に合ったサービス内容の変更を検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。				

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月16日

協議会名: 銚田市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
(株)かしま旅紀行 (株)昭和観光 銚田観光バス(株) 出久根タクシー(有) 銚田タクシー(有) ヨヨギタクシー(有) (有)出久根観光	銚田市デマンド型乗合タクシー 「ほこまる号」 営業区域: 銚田市内全域 運行日: 月曜～金曜 運行時間帯: 8時～17時 運賃: 500円 ※割引制度あり	広報活動として、市広報誌への掲載や市内各施設と連携したPR、イベントでのチラシの配布等を実施し、利用促進、事業の認知度向上を図った。また、運行事業者と運行状況や課題について協議を行い、情報共有しながら事業を推進した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 計画に位置付けられた目標値には達しなかった。 ・1日当たり平均利用者数 目標 70人以上 実績 65.5人 ・収支率 目標 13.1%以上 実績 12.3% 分析: 周知活動の継続により認知され、着実に利用者数が増加したが、目標値には達しなかった。	・認知度は上がっているものの、まだ制度を知らない市民がいる。また、内容を理解されていない利用登録者もいる。認知度向上及び理解促進のため引き続き市広報紙への掲載や市内各施設と連携したPR等を実施し、幅広く周知を図り、利用促進に努めていく。

地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	広報活動や事業者との協議及び情報共有などの取組は評価できるが、利用者数などの目標は未達成となった。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・現在取り組んでいる需要喚起策のほか、今後利用者となりうる住民等に対して新たな取組を検討していただきたい。 ・導入している交通によって市民(町民、村民)の活動がどのように変わってきたのか、必要に応じて副次的な効果を分析することも検討していただきたい。
---------------------------------	---

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月27日

協議会名：つくば市公共交通活性化協議会
評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
新栄タクシー有限会社	筑波地区支線型バス「つくばね号」 系統 1:筑波ふれあいの里入口(つくば湯)～ 筑波中央病院(1号車) 2:筑波中央病院～筑波ふれあいの里 入口(つくば湯)(2号車) 3:筑波山口～筑波中央病院(1号車) ※部分運休運行 4:筑波中央病院～筑波山口(2号車) ※部分運休運行 5:筑波ふれあいの里入口(つくば湯)～ 筑波山口 ※系統3と4は、以下の期間のみの運行 (筑波山口～筑波ふれあいの里入口(つく ば湯)は道路混雑により休止) ①紅葉時期(10月下旬～12月上旬) の土日祝日 ②GWシーズン(4月下旬～5月上旬) の土日祝日 ※系統5は、以下の期間のみの運行 3月1日～11月30日 運賃:200円均一 ※高齢者割引など各種割引制度あり	・部分運休の実施時間と期間を見直 した。 ・つくバス北部シャトルとの接続を意 識したダイヤ改正を実施した。 ・観光客の移動需要に即したショー ト便(17便)を増便させた。	A 事業が計画に位置づけられ たとおり、適切に実施され た。	A 【目標】 1便当たりの利用者:1.0人 以上 【実績】 1便当たりの利用者:1.17人 (平日1.13人、土日祝日1.31 人) →目標達成 【分析】 観光客の移動需要を取り込 めるようなダイヤ改正を実 施した結果だと思われる。	・車内に沿線等のイベント情報 を掲出するなど、住民の外出を 創出させるような施策を検討す る。 ・住民との意見交換会を開催 し、移動需要を調査した上で、 利用目的に合わせたダイヤ調 整を実施する。 ・日常的な利用(通勤・通学な ど)の需要を見つけ、利用につ ながるようなダイヤ改正を検討 する。
地方運輸局等における 二次評価結果 (関東運輸局)	実情に応じた運行の見直しに取り組まれ、1便当たりの利用者数を達成されたことを評価する。 第三者評価委員会での有識者からの助言(下記)を、今後の検討の参考としていただきたい。 ・特定少数の利用者が繰り返し利用しているのではなく、導入の目的を達成しているかを検証するため、延べ乗車人数以外のデータも確認することなども検討していただきたい。 ・生活様式に合わせて利用方法を解説する案内チラシを配布するなど、住民にとって分かりやすい周知を行うことも検討していただきたい。				